

# おふろ洗い【中学年1・3】

自分の生活と重ね合わせ、ねらいに迫る取組み

- (1) **主題名** 続けることの大切さ〔1・3〕 関連項目〔4・2, 4・3〕
- (2) **ねらい** 自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げようとする態度を育てる。
- (3) **資料名** 「おふろ洗い」
- (4) **授業の展開例**

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 家での仕事について発表する。	<p>自分で決めてしている仕事やお手伝いがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗たく物の取り入れ</li> <li>・茶わんあらい</li> <li>・玄関そうじ</li> <li>・ペットの世話と散歩</li> </ul>	日常行っている仕事や手伝いについて自由に発表し、資料との関連を図る。
展開	2 資料を読み、りょうたの気持ちを考える。	<p>りょうたは、はじめお風呂洗いをどんな気持ちでやっていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピカピカにするぞ。</li> <li>・きれいになって喜んでもらえるといいな。</li> </ul> <p>お風呂洗いを続けるうちにりょうたはどんな気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だんだんいやになってきた。</li> <li>・やめたいとも思ったが、頑張って続けようとした。</li> </ul>	りょうたが張り切って仕事を始めたことをおさえる。
開拓	3 家族の思いを受けとめているりょうたの気持ちを話し合う。	<p>家族からの手紙を読んだりょうたはどんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばってお風呂洗いを続けてよかったです。</li> <li>・これからもがんばるよ。</li> </ul>	頑張ったことをまわりから認めてもらうことが次への目標のバネになることを理解させる。
	4 自分の生活を振り返る。	<p>「続けてよかったですなあ。」と思うことがあります。また、続けるための「ひけつ」はなんですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの励ましをもらって練習を続け、逆上がりができるようになった。</li> <li>・家に帰ったらすぐに洗たく物をたたむようにしている。</li> </ul>	「心のノート」P22, 23を活用する。
終末	5 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続けることは難しいけれど大事なことなんだな。</li> </ul>	ねらいにかかわって教師の体験談を示し、次への活動の意欲付けを図る。

## おふろ洗い

「どうする、りょうた。」

「うーん・・・よし、おふろ洗いに決めたよ。」

四月から、ぼくと弟は、家の自分のじいとをきめ、毎日それをすることにした。

一年生の弟は、朝、ゆうびん受けから新聞をとつてくれる」と。そしてぼくは、おふろ洗いだ。

自分で決めたのだからと、はじめはとてもはりきつていた。ところがやつてみるとこれがけつこうめんどうだ。ぼくの家は六人家ぞくだから、みんなが入ったあとのおふろはけつこうよごれていのだ。ふろがまだけではない。つゆどきは、ゆだんをしていると、洗面きやいすにかびがはえてくる」ともあつた。このあいだなんかは、お父さんのかみそりをふんづけるといろだつた。あぶない、あぶない。

夏になつて、水が使えるおふろ洗いは気持ちいいだらうと弟は言うのだけれど、これがぜんぜん気持ちよくない。おふろ場はせまいので、暑いのだ。その上つらいのは、夕方みんながおふろに入る前にきちんと洗い終わつてお湯をはらなきやならないつてことだ。「まだ明るいのに、もう帰るのかい？」・・・友だちのさそいをことわつて家に帰るのはすぐつらい。ラジオ体操のついでにおわつてしまつ弟のじいとがうらやましくてしかたがなかつた。

でも、ほんとうにつらいのは冬だつた。寒いし、水は冷たい。と中でめんどうくさくなつて、いいかげんにすませた日もあつた。もういやだとふくれて、父さんにしかられた日もあつた。もうやめようつと何度も思つたけれど、「ここでやめたら、今までがんばつてきた意味がないじやないか。」と自分に言い聞かせた。

そんなおふろ洗いが、ようやくあたりまえに思えるよつになつてきた二月の終わり、いつものようにおふろ洗いをしようつと浴槽のどびりをあけたら、なんだかいつもとようすがちがつ。

お父さんのひげそりセットも、お姉ちゃんのシャンプーやリンスも、弟のおもちゃもみんなきれいにせいとんされている。そればかりではない。ふたをあけてみると、おふろにはあたたかいお湯がはられて、ゆげを立てている。よく見ると、かがみのそばに、ビールふくろに入った紙がある。手紙のようだ。

りょうたへ

四月にきめた自分のしごとの「おふろあらい」、一日も休まずやりとおしたね。

一年間、毎日気持ちよくおふろに入れたよ。ありがとう。かんしゃの気持ちをこめて、みんなでそうじした一番ふろをプレゼントします。

よくがんばったね。

家ぞく一同より

ぼくは本当にびっくりした。  
一年間がんばって、本当によかつたと思った。  
まだおふろに入つていないので、ぼくはなんだかむねのあたりがぽかぽか  
とあたたかくなってきたような気がした。

# 活用に生かすための実践報告

## 「おふろ洗い」

### 1 主題の設定

・「やりとげる」ということを自ら意識して行動することは、中学年児童にとって決してやさしいことではない。多くの場合、何らかの外的動機や他からの働きかけがあって「継続」が実現していることが多いものである。本資料は「困難に打ち勝ち、自らの強い意志でやりとげる」ということ、言い換えれば結果としての「継続の実現」ではなく意思としての「不撓不屈」の価値に気付かせることをねらいとしている。よって、資料の情景そのものよりも、資料をきっかけに、児童自身が自分や友だちの心の中を改めて見つめ、価値を導き出すこと、価値に向かって高まっていこうとする意欲をもつことが重要であると考える。

### 2 指導過程の工夫

・先述の「外的動機や他からの働きかけがあつての継続の実現」は、本資料のお手伝いについても例外ではない。実際この資料を用いた授業でも、一番児童が互いにうなづきながら聞き合っていたのは、「いやだなあ」「したくないなあ」と思ってしまった体験の部分であった。しかし、子ども自身の体験には他からの励ましや報酬だけではなく、自分自身の前向きな思い（意志、内発的動機付け）もその中に含まれているはずである。子どもたちがそのようなよりよい自分を再発見し、自分への肯定感をもつことができる時間になるよう、展開後段では「心のノート」P 22・23を取り上げる。

### 3 発問の工夫

・このように身近な主人公の場合、児童が自分自身との同一性を得やすいという長所がある。それを生かすと同時に、児童自身が偽りのない自分の気持ち（姿）を飾らず

見つめることができるという点からも「心の揺れ」は児童の本音を引き出しやすくする一つのポイントとなると考える。中心発問には、主人公が「やり抜こうとがんばったこと」を価値としてつかませる意図がある。そこまでの心の揺れをおさえながら、「1年間続いた」という結果（行為）よりも、「自分の意志で決めて、自分の意志でやり抜いた」というこころ（心理）に価値を見いだすことができるように児童の反応を整理していく必要がある。

### 4 児童の反応（授業後の感想）

・わたしは毎朝、陸上チームで走ってきました。今まで「チームの練習がある日だから」ということだけで走っていて、自分ではあまり考えていませんでした。「目ひょうをもつ」ことが続けるひけつだとわかったので、自分で自分の心に「がんばろう」と言い続けられたらいいです。

### 5 実践者からの一言

・この資料の学習では、家族の支えの中で「がんばってよかった」と実感する姿のすがすがしさが子どもたちに共感をもって伝わることが重要である。本資料は家族のぬくもりを感じさせる手紙で締めくくられるが、もちろんこのようにあたたかい家庭環境にある子ばかりではない。ここでは、立派な家族として扱うのではなく、「家族の心もあたためた毎日の積み重ね」が捉えられるようにしたいものである。

（長江小学校 安松洋佳）